

平成15年12月4日(木)

- 開 会 9時58分
- 教育委員会 9時58分
- 前回の委員長報告に対する回答

(1)田寺の立体駐車場の短時間利用者の無料化について

- ・ 当該駐車場は生涯学習大学、老人大学の学生以外にも周辺施設の利用者にも利用されることから、短時間利用者に対して最初の1時間ぐらいを無料化にする方向で検討していきたい。

(2)青少年センターの利用時間の区分を1時間単位とすることについて

- ・ 開館後に各部屋の利用状況を見たうえで検討していきたい。

- 提案理由説明 10時01分
- 質疑・質問 10時19分

問 視聴覚センターの使用不許可事由として「社会教育又は学校教育以外の目的で使用するとき」を加えるとあるが、従来許可されていた人や団体は今後も使用できると考えていいのか。

答 社会教育又は学校教育として従来使用許可していた者は今後も許可する。
議案第143号で引き下げられる退職金は金額にして大体どれぐらいなのか。
試算によると来年の退職で約80万円の減、その次の年は160万円ぐらいの減になると思っている。

問 成人式について、この内容で「来てよかったと思える」と考えているのか。
今までもいろいろ論議をしてきて今の形に落ち着いた。ここ最近の様子では式典自体はかなり落ち着いてきている。できるだけ式典の後のトラブルを避けたい。新成人が「参加してよかったな」と思えるようにしたいという思いは我々ももっている
一生に一回の成人式を記憶に残るような内容にすることを検討されたい。

要 望
問 答

城南幼稚園と城乾幼稚園を休園にしようとした経緯について聞きたい。
幼稚園教育振興計画の中で「2～3年継続して就園児数が20人程度となった幼稚園については、翌年度から休園の措置をとり、新たな園児の募集は行わない」と示されている。それに基づき実施したいということで案を示した。その内容としては小規模園、いわゆる13～15年度の3年連続して園児数が20人未満の幼稚園の配置基準をもとに、その対象園として増位、城乾、峰相、城南の4園が該当した。その4園について、今年度募集をした中で20人以上であれば保育を実施する。15人以上20人未満の場合は平成16年度は保育を実施するが、翌年度あらためて募集をして20人未満の場合は休園する。そして15人未満の場合は休園するという説明をした。

問 答 そういう形の中で今回募集を行った結果、現在の状況としては城南が4名、城乾が8名、増位が23名、峰相が15名である。

問 答 幼稚園の適正規模はどれぐらいだと考えているのか。
国の基準では一クラス35名となっている。最近では就園率が30%以下に落ち込んでいるところもある。姫路市としては段階的に20名ぐらいに落として、3年続けて園児20名を割れば休園し、その次に園の統廃合を考えていこうとしている。3～5名ぐらいで幼稚園を運営しても、経営効率の面からも共同生活の面からもよくない。それなら近くの幼稚園に行ったほうが集団教育ができる。ただし、隣の幼稚園までの距離が遠い場合は、園児数が少ないからといって閉園すると選択の余地がなくなるので配慮する。

問 答 幼稚園教育振興計画に基づいて、例えば将来の公立幼稚園については市域全域でこのように配置していく、配置外の遠方の人については独自の送迎バスを使い、必要な経費を保護者に負担してもらおうといった合意形成を図らなければならないのではないのか。

答 3年ぐらい前に幼稚園教育振興計画の中で周辺部の幼稚園のことを考えているときにバスの話が出たが、周辺部は選択の余地はないので残していかなければならないとなり、バスの話は消えた。中心部で休園に伴いバスを出すことについては、経費的な面、私立との関係もあるので論議していく必要がある。

問 幼稚園1園について、職員の人件費も含めて年間どれぐらいかかるのか。

答 平成14年度決算で投資的経費を除いて、1園当たり平均2,320万円かかっている。

問 公立幼稚園の役割についてどう考えているのか。

答 設立当初はすべての子供たちに就学前の教育を保障しようということであった。私立、保育所との関係等もあり、親の意識がかわり選択の幅が広がり、公立幼稚園の園児数が減ってきた。小学校とも連携し、すばらしい幼稚園教育をやってくれているものと思っている。我々としても幼稚園の適正配置の問題は早く解決しなければならないと思っている。

問 複数の校区にわたって必要な園児を集め、小学校施設の一部を活用した幼稚園教育はできないのか。

答 郡部では小学校施設の一部を借り、園長も小学校の校長が兼務しているところもある。複数の校区にわたって必要な園児を集めると小学校との交流が若干難しくなる。しかし、やり方によって校区が異なっても従来どおりの交流ができる。ただ小学校にあがった時に友達が少ないという面もあるが、それは私立に行った子供でも同じである。

要 望 姫路市として幼稚園教育をどうとらえて展開していくのかといった教育面からもっと踏み込んだ対応が必要だと思う。全市的に幼稚園の配置を将来的にはこうしていきたい、そのための基準はこれで、こういう手立てを講じていくという計画をつくっていかなければ、その都度同じ議論をしなければならない。

そういう全市的な計画を早期に策定してもらいたい。

問 小学校のエレベーターの設置について今後どうしていくのか。また障害児の介助員を今後拡大していくのか。

答 拠点校として6ブロックに各校ずつ整備していく。就学指導では障害をもった児童に拠点校に就学することを勧めることがないようできるだけ配慮していきたい。障害児の介助員については、できるだけ増員してもらえよう引き続き要望していきたい。

問 現地視察に行ったときに学童保育施設は狭いと感じたが、増築を行う考えはないのか。また来年度学童保育施設を整備する学校について、今年整備した学校の問題点を踏まえて改善する考えはないのか。

答 待機児童を解消するために学校側にも無理をお願いして、余裕教室を学童保育にあててもらい、それがないところはプレハブの独立施設を建設し対応してきた。将来的には人数がふえることも考えられるので、増築についても考えていく必要があるのではないかと考えている。

来年度整備する学童保育施設については、現場や地域の意見を聞きながら、建設にとりかかっていく。

問 伊勢幼稚園や谷内幼稚園の園児の募集状況はどうなっているのか。

答 谷内幼稚園は8名、伊勢幼稚園は15名である。

問 文部科学省は3歳児以上を対象にした幼児教育を言っている。姫路市としてどういう見解をもっているのか。

答 条件整備を進めていかなければ3年保育には手がつけられない。建物を建設する必要がある。幼稚園と保育所のすみ分けを進める必要もある。

問 他都市で幼稚園の3歳児保育をやっているところの現状を把握しているのか。

答 他都市では幼稚園の3歳児保育をやっているが、姫路市とは幼稚園保育の発足状況

が異なる。姫路市では先に公立の幼稚園がどんどん出てきたが、他都市では私立の幼稚園が先に出てきたところもある。そういうことで若干取り組み方の違いがある。

問 幼稚園と保育所のすみ分けをきちっとすれば幼稚園にも子供は集まると思うがどうか。

答 子育て支援の面から健康福祉局とも幼稚園と保育所の一体化はどうかといった話も検討している。教育委員会としても幼保一元化や一体化という形が望ましいのではないかと考えている。

問 幼稚園について園児数が3年連続20人未満であっても太市、伊勢、谷内の各幼稚園は他の園までの距離が3.5km以上であるため休園にならないとのことだが、3.5kmの根拠は何か。

答 義務教育の諸学校施設費の国庫負担法の施行令の中に適正な学校規模の条件がある。その一つの要件として通学距離が概ね小学校で4km、中学校で6km以内という基準がある。幼稚園についてはこの中には規定はないが、小学校の4kmという一つの基準を参考にして3.5kmという数字を決めている。

問 小規模な幼稚園において4歳児保育を導入し、年齢は違うが複数のクラスになるようにする考えはないのか。

答 来年度は安室東と御国野の2園で4歳児保育の導入を予定している。来年度については各ブロック内に最低1園の4歳児保育を導入するというので、城北の東と川東が未導入で、それぞれの各ブロック内で基本的に就園率の高い園ということで選定した。今後については全ブロックに4歳児保育の導入ができたので、小規模な幼稚園において4歳児保育を導入することも含めて4歳児保育の拡大に向けて順次取り組んでいきたい。

要 望 小学校の4kmという基準をもとに幼稚園を3.5kmにしたというのはわかるが、もう少し基準を緩和することも考えてもらいたい。

問 川東では山田幼稚園や船津幼稚園のほうが就園率が高い。来年からは就園率が高く園児数の少ない所から4歳児保育を導入してもらいたいがどうか。

答 各ブロックに1校と就園率が高いところという条件の他に、4歳児が多い所ということも条件の一つに考えた。幼稚園振興計画の中で4歳児保育の導入に当たっては基本的に単数級園以外の複数級園を優先して実施するという基本方針が示されていることもある。現時点では幼稚園振興計画に基づいて進めることを基本としているので、複数級園の中から選んだ。6ブロックすべてで4歳児保育が導入されたので、今後はそういうことも考えながら検討していきたい。

問 幼保一元化に向けた教育委員会と健康福祉局の合同プロジェクトのようなものは立ち上げられないのか。

答 そういうことについて、健康福祉局といろいろ話はしている。しかし一つには法律の壁があり、なかなか前に進まない。子育て支援プログラムを設定する中で教育委員会も参加し、教育委員会の要望も取り入れてもらえるようにいろいろ働きかけをしている。

問 姫路高校の1学級減というのは決まったことなのか。

答 兵庫県教育委員会が発表したように姫路高校の1学級減は決定している。

問 決定しているということは要望はもう上げられないということか。

答 姫路福崎学区の子供の数はどんどん減っている。従来から市教育委員会としては県教育委員会に対して市立3高校の学級数を減らさないように強く要望してきた。その結果、ここ7～8年県立高校の学級数減が進む中で市立3高校の学級数の減はなかった。しかし県教育委員会から市立高校も学級数減に協力してもらわなければならないという話がきた。市教育委員会としてやむなく姫路高校の8学級から7学級への減を受け入れた。

- 要 望 幼稚園の配置については、園児数が少ないところから減らしていくのではなく市全体を見てバランスよく配置できるようにするべきである。早急に取り組んでもらいたい。
- 問 大学生等奨学貸付制度の対象者を専門学校生にも広げてもらいたいとの要望があるが、対象に入れる考えはあるのか。
- 答 要望は受けている。昨年から 100人の枠で一般奨学を実施している。去年実施した際にも 400人を超える応募があった。その中で一応所得基準の低い人から優先して奨学決定していった。今年度も 300人を超える応募があり、その中で同じように 100人の奨学生を決定した。それ以外に特別会計で主に給付でやっている奨学制度もある。専門学校生等に対する奨学金については、現在の一般奨学については対象外ということにしている。100人の枠を大幅に上回る応募があるので、現時点では今のやり方でやっていきたい。
- 問 応募が減少する傾向が見られないということは、ずっと対象外という状況が続くと理解してよいのか。
- 答 姫路市として 100人という枠はあるものの学業成績や所得制限を取り払って募集したもので特色のある制度である。ただ順番としては低所得者を優先している。まだ始めたばかりの制度なので、これから将来を見据えた中で検討していきたい。
- 要 望 特色あるというのであれば専門学校生も含めて考える必要があるのではないかと。幼稚園の統廃合の問題もそうだが、長がもう少し早く決断してもらいたい。
- 問 姫路福崎学区の高校に進学できず、県外の高校に通学している生徒を救済するべきだと考えるが、現状はどうなっているのか。
- 答 平成15年度で県外の私立高校に市内から通学している生徒の数は78人で全体の 1.6%である。
- 問 市立3高校の普通教室の空調の設置についてどう考えているのか。
- 答 普通教室に空調設備を設置する場合に補助金がもらえるかも含めて検討していきたい。
- 要 望 何とかあと1学級増やしてもらえれば県外の高校に行かなくて済む。できるだけ姫路市の生徒は姫路福崎学区の中で育てていくという基本にたって、学級数の問題については努力してもらいたい。
- 要 望 教育職員退職手当の減額によりできたお金を姫路市として特色ある使い方をしてもらいたい。
- 終 了 11時40分
- 意見の取りまとめ 11時42分
- (1) 付託議案審査について
 ・議案第128号については、全会一致で可決すべきものと決定
 ・議案第143号については、賛成多数で可決すべきものと決定
- (2) 請願審査について
 請願第1号、請願第5号、請願第11号、請願第12号
 以上4件については、継続審査すべきものと決定
- (3) 陳情報告について
 陳情第8号について報告
- (4) 閉会中継続調査について
 別紙のとおり継続調査すべきものと決定
- (5) 委員長報告について
 正・副委員長に一任することに決定。
- 行政視察について
 1月21日(水)～22日(木)の2日間で長崎市に行くことに決定。長崎市に断られ

○

た場合には大分市に行くことに決定。
閉 会

12時05分